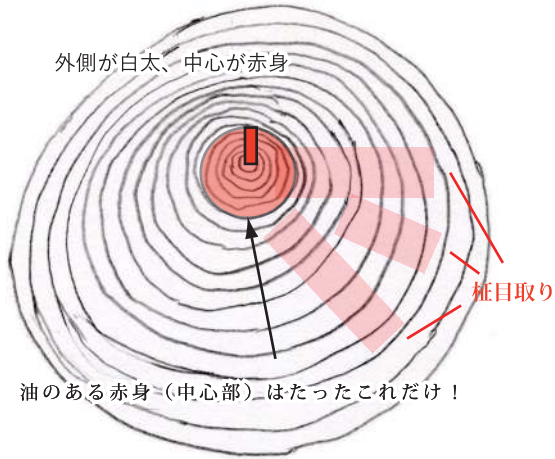
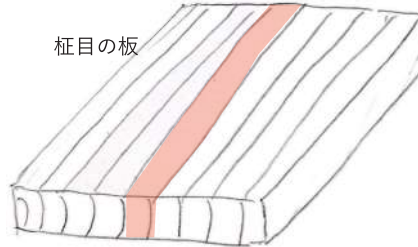


クロマツやアカマツの根に近い中心部には、油分が多く含まれており、昔から松明（たいまつ）やロウソクの原料として使われてきました。

柱松の松明も、油分の多い松の芯を小割にして束ねて作ります。松の赤芯は、直径 60 cm の大木から、わずか 20 cm 程度しかとれない大変貴重な原料です。

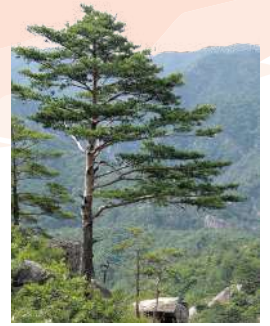


芯目の板



板が芯目になるように割り出し、更に 1 ~ 2 cm 角に小割にする。

崩れない丈夫な松明を作るには、木取も重要だ。

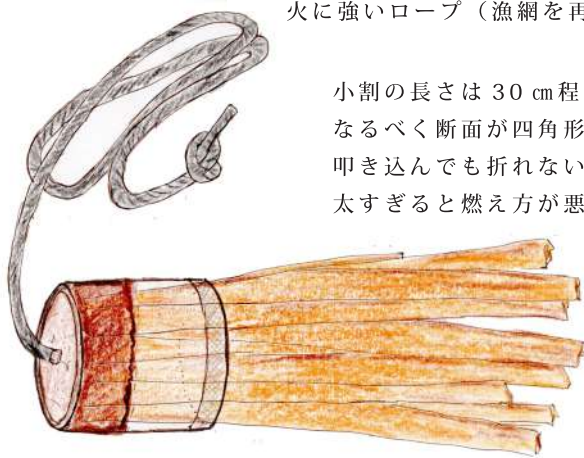


クロマツの大木



山の中で白太を腐らせ残った赤身だけ持ち帰る

重さの調整として、缶の 1 / 3 程粘度が詰めてある。重いと投げづらいが、軽いと高く上がらない。



火に強いロープ（漁網を再利用）

小割の長さは 30 cm 程なるべく断面が四角形で、叩き込んでも折れないサイズ。太すぎると燃え方が悪い。

厚手のスチール缶を 9 cm で切り、1 cm 程折り返す。近年、厚手のスチール缶が激減。空き缶募集中。



割った小割薪をスチールの空き缶切断し、縁を折り返して筒にする。箍（たが）と楔（くさび）の原理を使って、シンプルな構造ですが、投げても壊れない強固な松明ができる。

古式松明



昔は稲わらで縛った松明が作られていました。今でも、家の魔除けや飾りとして使われています。

WORK SHOP

家庭教育学級

9月5日、PTA 学年委員の企画として市木柱松で使う松明づくりのワークショップを行いました。



講師の川野さんは 30 年間柱松の松明を作り続けてきました。